

第 1 次動植物国宝切手 うめ 日本切手図鑑 2008 引用

●動植物国宝図案切手：どうしよくぶつこくほうずあんきって

1948 ～ 50 年に産業図案切手が発行されたが、石炭や蒸気機関車の図案は時代遅れだという批判もあり、国宝を図案とする新たな普通切手シリーズが企画された。第 1 号が、1950 年 11 月 1 日発行の外国向書状用 24.00 円切手「平等院鳳凰堂」である。

国宝・動物・植物などを描く新図案の普通切手シリーズの始まりであり、以後 1989 年 (平成 1) まで発行が続いた。収集家はこれらの切手を「動植物国宝図案切手」と総称するが、約 40 年にわたる長大なシリーズであるため、図案や基本料金の変遷によって幾つかのグループに分類している。

これらの普通切手は一貫した計画の下に発行されたものではない。一斉発行ではなく、料金値上や新制度の導入に際して発行されたので、シリーズとしての統一性はない。収集家は便宜的に数グループに分類しているが、万人が納得できる分類は不可能である。

●「さくら」カタログの分類

動植物国宝図案切手 (NIPPON 表示なし)

第 1 次動植物国宝：1950 ～：額面が銭単位 (ゼロ付き)

第 2 次動植物国宝：1952 ～：額面が円単位 (ゼロ無し)

第 3 次動植物国宝：1961 ～：新図案 値上に伴う

新動植物国宝図案切手 (NIPPON 表示)

1966 年シリーズ：封書 15 円時期・NIPPON 表示

1967 年シリーズ：色検知方式に対応

1972 年シリーズ：封書 20 円時期

1976 年シリーズ：封書 50 円時期

1980 年シリーズ：封書 60 円時期

1989 年シリーズ：封書 62 円時期 (消費税導入)

国宝・重文に指定されている建築物・仏像・工芸品・絵画、日本を代表する動物・植物 (天然記念物など) を意匠としている。1 円切手だけは郵便の父 = 前島密の肖像。

1966 年以降、UPU の規定によりローマ字の国名表示 (NIPPON) が入ったが、それまでの NIPPON 表示の無いものを「動植物国宝図案切手」とし、NIPPON 表示以後を「新動植物国宝図案切手」と 2 分する。

●第 1 次動植物国宝図案切手 (銭単位)

発行日	額面	図案	用途	備考
1950-11-01	24 円	平等院鳳凰堂	外国書状	s/s (郵便週間)
1951-03-27	14 円	姫路城	外国葉書	s/s
1951-04-14	1 円	前島密		
1951-05-01	50 円	如意輪観音		s/s
1951-05-21	80 銭	石山寺多宝塔	第 3 種用	s/s
1951-12-10	10 円	金堂壁画		
1951-12-25	5 円	尾長鶏		
1952-02-xx	5 円	尾長鶏		

1950 年 11 月 1 日：普通切手初の透かし無し切手として、外国向書状用の 24.00 円切手「平等院鳳凰堂」が登場した。この日は 1950 年の切手趣味週間の第一日であったが、切手濫発の世論があるため記念切手は発行せず、国宝図案切手の第 1 号をこの日に発行したのである。同時に同切手を 1 枚収めた小型シートを 50 万部製造した。そのため、小型シートの F D C には「切手趣味週間」の特印を押したカバーが多い。

1951 年 3 月 27 日：外国葉書用 14.00 円切手「姫路城」を発行。

1951 年 5 月 1 日：50.00 円「中宮寺如意輪観音」を発行。寺側は如意輪観音としていたが、学術的には「弥勒菩薩」である。

1951 年 5 月 21 日：80 銭「石山寺多宝塔」を発行。以上 4 種には、それぞれの切手を 1 枚収めた小型シートも発行されており、収集家は「国宝小型シート」とも呼ぶ。

●第 2 次動植物国宝図案切手 (円単位)

印面上の表示事項は、終戦後に整理・改正されてきた。1948 年 9 月以降発行の切手からは、国名は左書「日本郵便」、料額文字はアラビア数字のみ (漢数字無し) となった。さらに、1951 年 11 月の値上げにより銭単位料金がなくなったため、1952 年度から新切手の料額表示はすべて円単位となった。

例えば従来の 5 〇〇 を、単に 5 と表示する。円単位最初の記念切手は日赤創立 75 年 (1952-05-01)、普通切手では金魚 35 円 (1952-05-10) である。⇒日本切手の料額単位。

●新動植物国宝図案切手 (NIPPON 表示)

1964年：ウィーンで開かれた第15回万国郵便連合大会議で、1966年1月1日以降に発行する新切手について、国名をローマ字でも表記することを決議した。これを受けて、郵政省はNIPPON・NIHON・JAPON(仏語=UPUの公用語)・JAPAN(英語)などを候補にあげて、議論を重ねた。東京五輪以来世界に知られてきた「NIPPON」に決め、1965年9月の閣議で正式決定し、新規発行の切手には全て「NIPPON」を入れることになった。直ちに全種類の切手をNIPPON表示に改版したのではない。⇒国名表示。

1966年1月31日：魚介シリーズ「イセエビ」が「NIPPON」表示の第1号である。普通切手では6月20日発行の「延暦寺根本中堂」60円切手と「音声菩薩」200円切手からNIPPONが表示された。

1966年7月1日：★書状15円・葉書7円に値上げ。7円・15円など、値上に際して必要となった新額面の切手から順次NIPPONが入れられた。上記の延暦寺60円と音声菩薩200円は7月1日の料金値上げに先立って発行されている。以後、平成切手(日本の自然シリーズ)が登場する25年間に発行された切手を「新動植物国宝図案切手」と呼ぶ。JPSのカタログでは郵便料金の変遷に対応して、「新動植物国宝図案切手」を6つのシリーズに分類している。第一陣が①「1966年シリーズ」(封書15円時期)である。

1967年：★色検知方式対応の刷色に変更。②「1967年シリーズ」(封書15円時期：色検知対応)。これ以後1972年シリーズまでに発行された切手は、色検知対応でなくとも便宜上このシリーズに含む。

1972年2月1日：★書状20円・葉書10円に値上げ。③「1972年シリーズ」(封書20円時期)が登場。

1975年4月22日：最高額の1000円切手を発行。同時に小型シートも発行した。これは「全日本切手展25周年」記念に企画された小型シートだが、結局は発売局を限定して普通切手の1種として売り出された。

1976年1月25日：★書状50円・葉書20円に値上げ。④「1976年シリーズ」(封書50円時期)。特殊料金や小包料金なども値上げされ、従来の高額切手である200円や500円だけでは間に合わなくなった。まず150円・250円・300円・350円・400円などの額面の切手が発行された。また、従来の凹版印刷の大型切手だった200円・500円切手もグラビア印刷の普通サイズに変更し、量産向けになった。

1981年1月20日：★料金値上げで、封書60円・葉書40円となる。⑤「1981年シリーズ」(封書60円時期)。封書料金に該当する梵鐘60円切手は前年11月に発行

されている。

1989年4月1日：★消費税導入で、封書62円・葉書41円となる。⑥「1989年シリーズ」(封書62円時期)。

1992年より：平成の新時代を迎え、「日本の自然」を統一テーマとして切手図案を刷新しはじめた。以後の切手を、「平成切手」シリーズまたは日本の自然シリーズとして分類している。

●第1次動植物国宝シリーズの概要

番号	s/s	発行日	額面	図案	主な用途
《#341》	《#348》	1951-05-21	80 銭	多宝塔	低料第3種
《#342》	《C0218》	1951-04-14	1 円	前島密	農産物種子
《#343》		1951-12-25	5 円	尾長鶏(濃)	私製葉書
《#343a》		1952-02-xx	5 円	尾長鶏(淡)	私製葉書
《#344》		1951-12-10	10 円	法隆寺壁画	封書
《#345》	《#349》	1951-03-27	14 円	姫路城	外信葉書
《#346》	《#350》	1950-11-01	24 円	鳳凰堂	外信書状
《#347》	《#351》	1951-05-01	50 円	弥勒菩薩	小包・別納

第一次動植物国宝シリーズは、産業図案シリーズに続き、1950～1952年に発行された普通切手シリーズ。印刷効果を高めるために、透かし無し用紙を採用した。また、このシリーズの1円と50円は、普通切手にグラビアが採用された第一陣である。

「動植物国宝」とは収集家が便宜的につけた名称であり、郵政当局が付けたものではない。8種(7種)の図案は、国宝5種・尾長鶏2種(濃淡を無視すれば1種)・人物1種であり、植物は無い。従来の日専は尾長鶏の濃色・淡色を独立した切手としてメインナンバーを与えていたが(#291・#292)、日専2000年版からは#291(淡色)・#291a(濃色)とし、#292が欠番となっている(その後の番号変更で上表のようになった)。

8種のうち5種はs/sを同時に発売している。1円以外の4種は「国宝小型シート」と総称されている。サイズは75×51mm。

第一次動植物国宝と同時期に、従来の切手の図案のままで用紙を透かしの無いものに改めた「昭和透かし無し切手」シリーズ(10種)が発行されている。組合カタログの分類では、第一次動植物国宝の8種を「昭和透かし無し切手」に含めている。

●製造面の概要

額面：図案：銘版：版式：目打形式

80 銭：多宝塔：⑪：凸版平台：普通櫛型
1 円：前島密：⑪⑫：板グラビア：普通櫛型
5 円：尾長鶏(濃)：⑫：凸版輪転版2色：普通全型
5 円：尾長鶏(淡)：⑫⑬：凸版輪転版2色：普通全型
10 円：法隆寺壁画：⑫⑬：凸版輪転版2色：普通全型
14 円：姫路城：⑪：凹版：普通櫛型
24 円：鳳凰堂：⑪：凹版：普通櫛型
50 円：弥勒菩薩：⑪⑫：板グラビア：普通櫛型

●製造面のバラエティ

額面：図案：銘版：裏糊：刷色：日専評価(銘10)

80 銭：多宝塔：⑪98番：A：：5000
1 円：前島密：⑪99番：D：：15000
：⑫98番：A：：12000
5 円：尾長鶏(濃)：⑫98番：D：：40000
5 円：尾長鶏(淡)：⑫98番：A・AD：濃い：25000
：⑬98番：A・AD：：16000
：⑬98番：A・AD：：16000
10 円：法隆寺壁画：⑫98番：D：：60000
：⑫98番：A：：55000
：⑬98番：A・AD：：80000
14 円：姫路城：⑪95-6：D：：56000(銘田)

：⑪95-6：A：：60000(銘田)
24 円：鳳凰堂：⑪49番：D：：36000(銘田)
50 円：弥勒菩薩：⑪99番：A：濃い：30 万円
：⑫98番：A：：30 万円

銘版は以下の3種

印刷庁製造(旧庁)・⑫印刷庁製造(新庁)⑬大蔵省印刷局製造

なぜか、前島1円と仏像50円の旧庁銘は99番切手の下にある。

裏糊は以下の3種

D：デキストリン糊 A：アラビアゴム糊 AD：A D糊

「A糊とAD糊の識別が困難である」として、日専では糊を区別した評価はおこなっていない。



